

第15回 岐阜県鳥獣被害対策本部員会議

平成29年12月12日(火) 10:00~10:20
4F特別会議室

鳥獣害対策・ジビエ 長期戦略（H29～33）

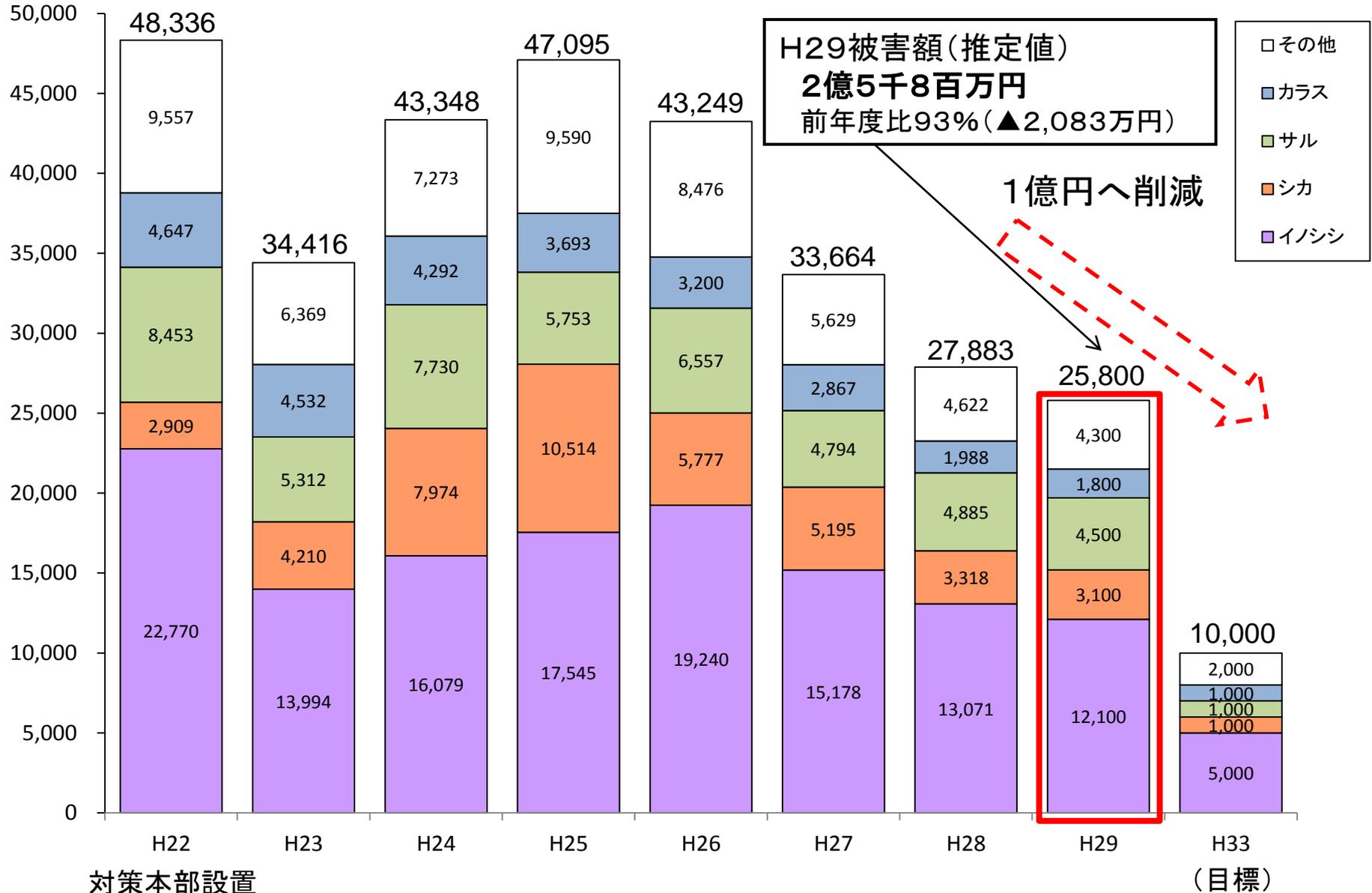
H29からの5年間に、防護、捕獲等のあらゆる対策を集中的に実施し、「被害の低減が実感できるレベル」まで引き上げるとともに、安全で美味しい「ジビエの安定供給」の実現を目指す。

<目標>

	H28(現状)	H33(目標)
農作物被害額	2.8億円	1億円
カワウ生息数	2,000羽	1,000羽
ジビエ活用率	5%	25%

1 農作物被害の状況

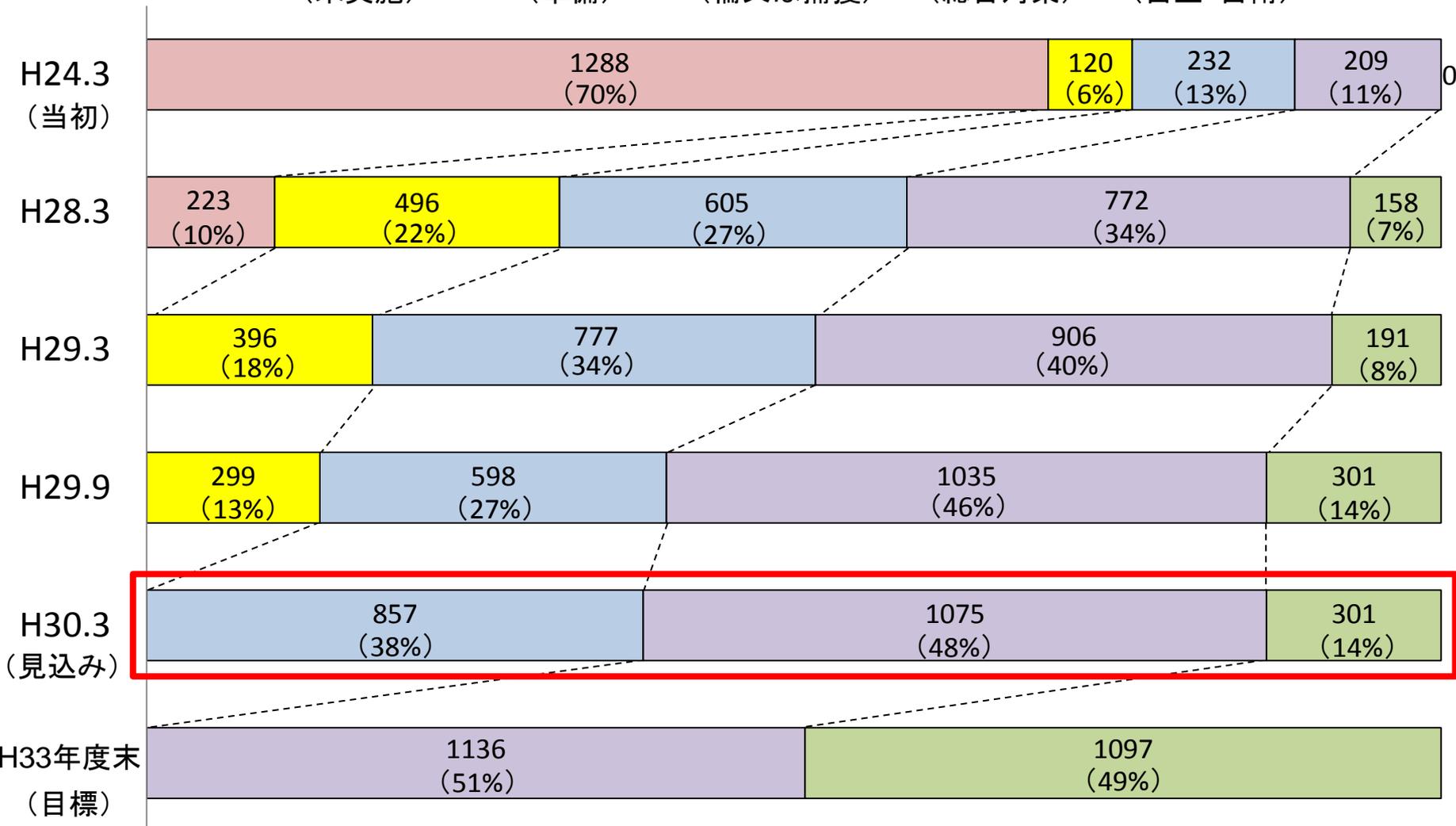
(万円) <目標> 農作物被害額 2. 8億円(H28)→1億円(H33)へ削減



対策に取り組む集落

<目標> H33までに全集落を「レベル3」以上へ押し上げ

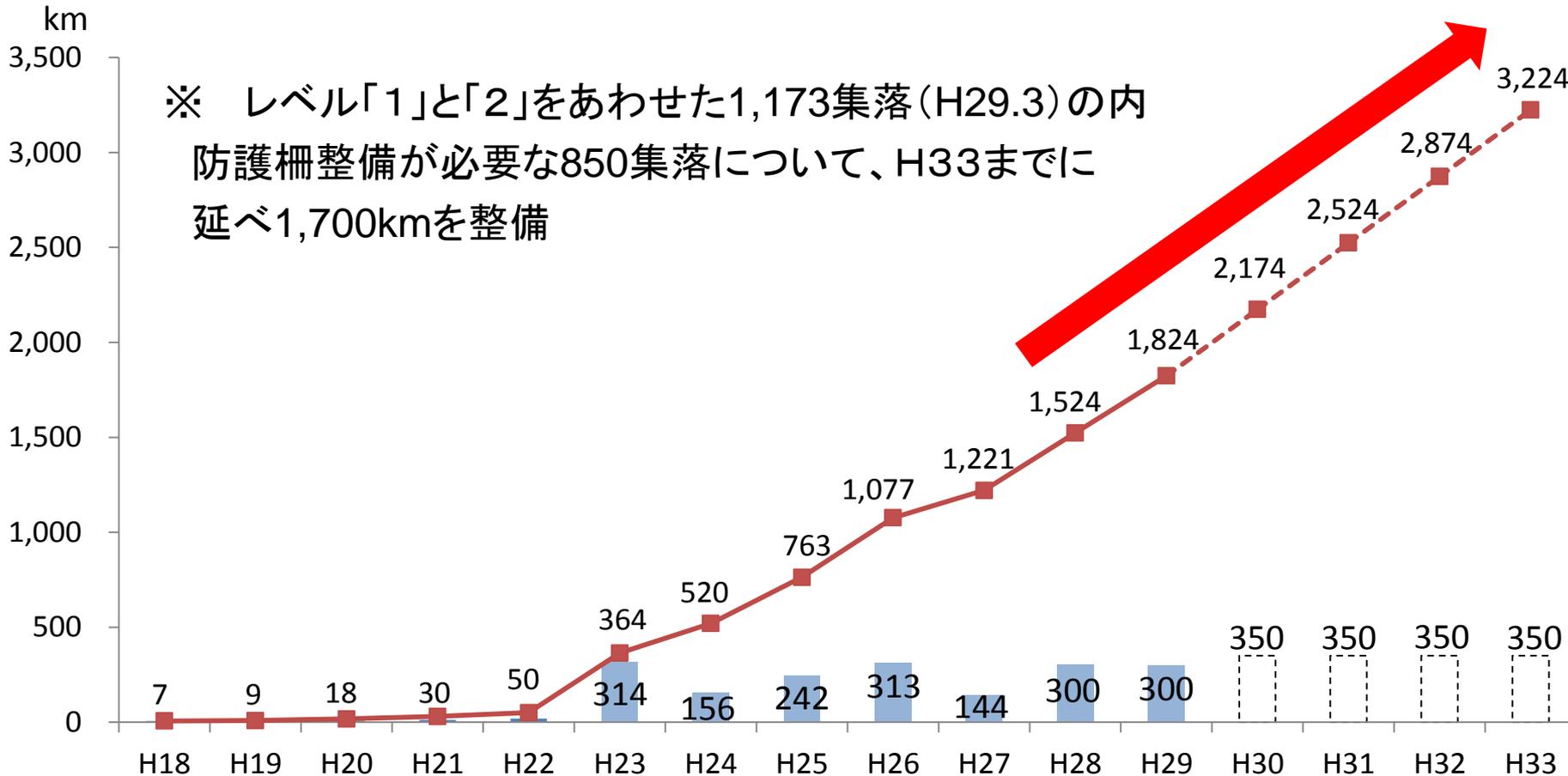
■レベル0 (未実施) ■レベル1 (準備) ■レベル2 (柵又は捕獲) ■レベル3 (総合対策) ■レベル4 (自立・自衛)



防護柵の整備

＜目標＞総延長を1,500km(H28) → 3,200km(H33)へ拡大

※ レベル「1」と「2」をあわせた1,173集落(H29.3)の内
 防護柵整備が必要な850集落について、H33までに
 延べ1,700kmを整備

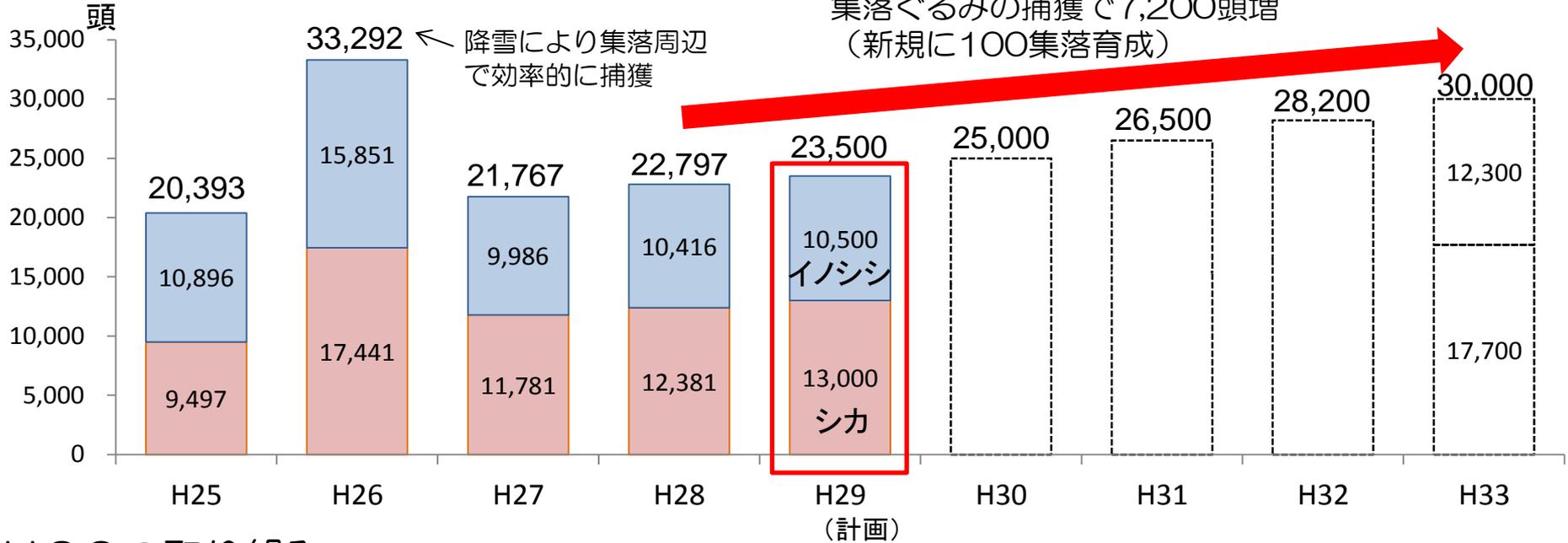


対策の目標		H29	H30	H31	H32	H33
防護柵	整備が必要な集落	850集落	150	175	175	175
	整備延長(5年間)	1,700km	300	350	350	350

シカ・イノシシの捕獲

<目標>シカ、イノシシの捕獲頭数を2.3万頭(H28)→3万頭(H33)へ増加

集落ぐるみの捕獲で7,200頭増
(新規に100集落育成)



H29の取り組み

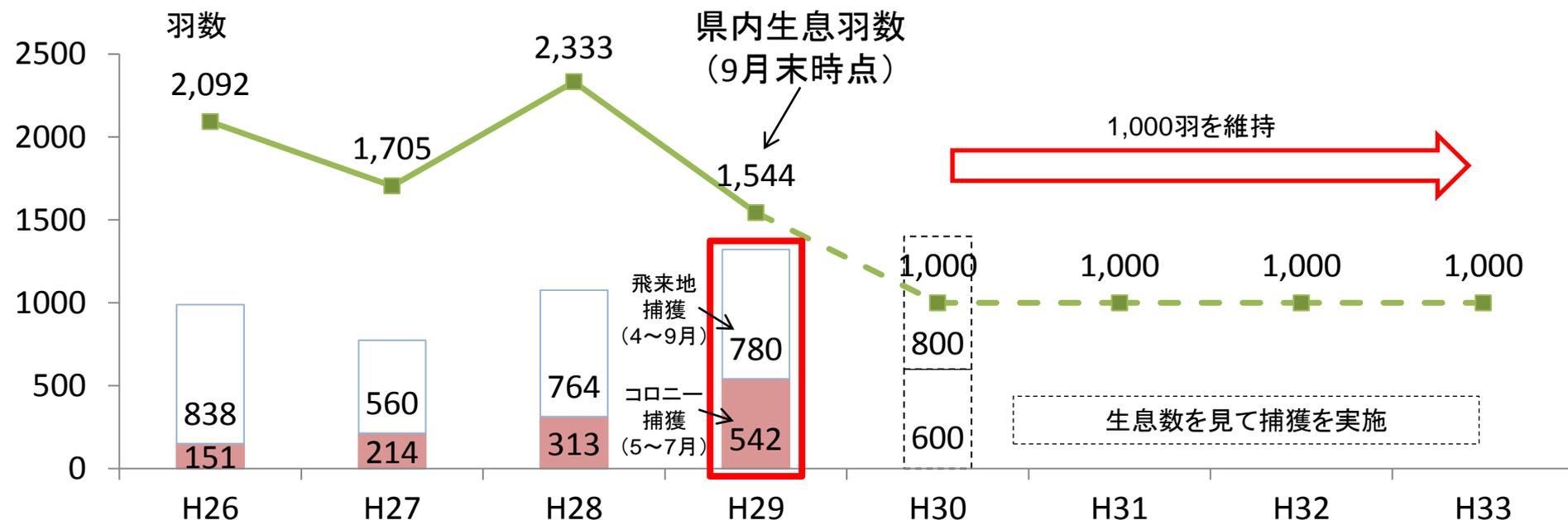
捕獲区分	実施主体	捕獲頭数
シカ個体数調整	15市町村	7,000
有害鳥獣捕獲	35市町村	10,000
集落ぐるみの捕獲	6市町の計10集落 ・新規狩猟免許取得 51人 ・捕獲協力者育成 242人	700
狩猟等	猟友会	6,300
		24,000



集落住民を対象とした罠設置研修会 (高山市)

2 カワウ被害対策

<目標>カワウ生息数 2,000羽 (H28) → 1,000羽 (H33) へ削減



コロニーでの集中捕獲
(H29.5~7月)



生息羽数調査

流域における一斉対策のモデル実施

御嵩町今渡ダム上流部ねぐらを中心に一斉追い払い、捕獲を実施

実施日	11月7日(火)8:30~15:00
場所	美濃加茂市内 今渡ダム、木曾川、飛騨川など30カ所 可児漁協管内 松の湖、可児川など6カ所 木曾川中流漁協管内 丸山ダムなど4カ所 飛騨川漁協管内 飛騨川河川12カ所 計50カ所
参加者	県(可茂農林事務所)、美濃加茂市、可茂管内の3漁協、猟友会 60名
成果	銃による捕獲を行いやすい木曾川東部、飛騨川への一斉追い払いにより、効率的に捕獲(22羽/日) ※例年:5~6羽/日



地元猟友会によるミーティング



カワウの追い払い



捕獲したカワウの回収

千本松原における対策

『千本松原カワウ被害対策会議』の設置

構成員	県(農政部、環境生活部、県土整備部)、海津市(建設課、教育委員会) 河川管理者(国土交通省木曾川下流河川事務所)
活動内容	対策会議・現地調査 2回(7月19日、9月4日) 研修会 1回(11月21日)
今後の予定	・河川管理者による鷹匠を活用した追払い(12月12日) ・県による松の木へのテープ巻き(1月予定)



対策会議



現地調査



専門家を招いての研修会

H30の取り組み



◇ カワウ被害対策月間の取組み(4月、11月) <新規>

稚鮎の放流期(4月)、カワウ営巣開始期(11月)を対策月間と位置づけ
全県レベルの取組みを実施

4月 : 河川等における一斉捕獲、追払い

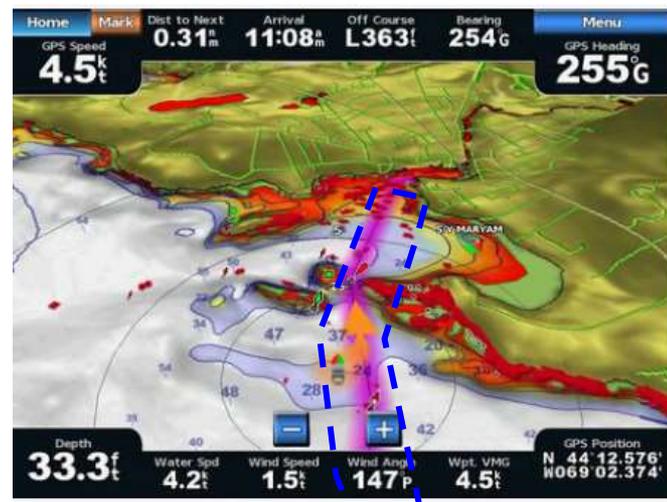
11月 : カワウ被害広域対策フォーラムの開催

◇ 飛行ルート調査(11~12月予定) <新規>

隣県(愛知、三重、滋賀)からの流入状況調査、連携会議の開催



カワウ被害対策フォーラム

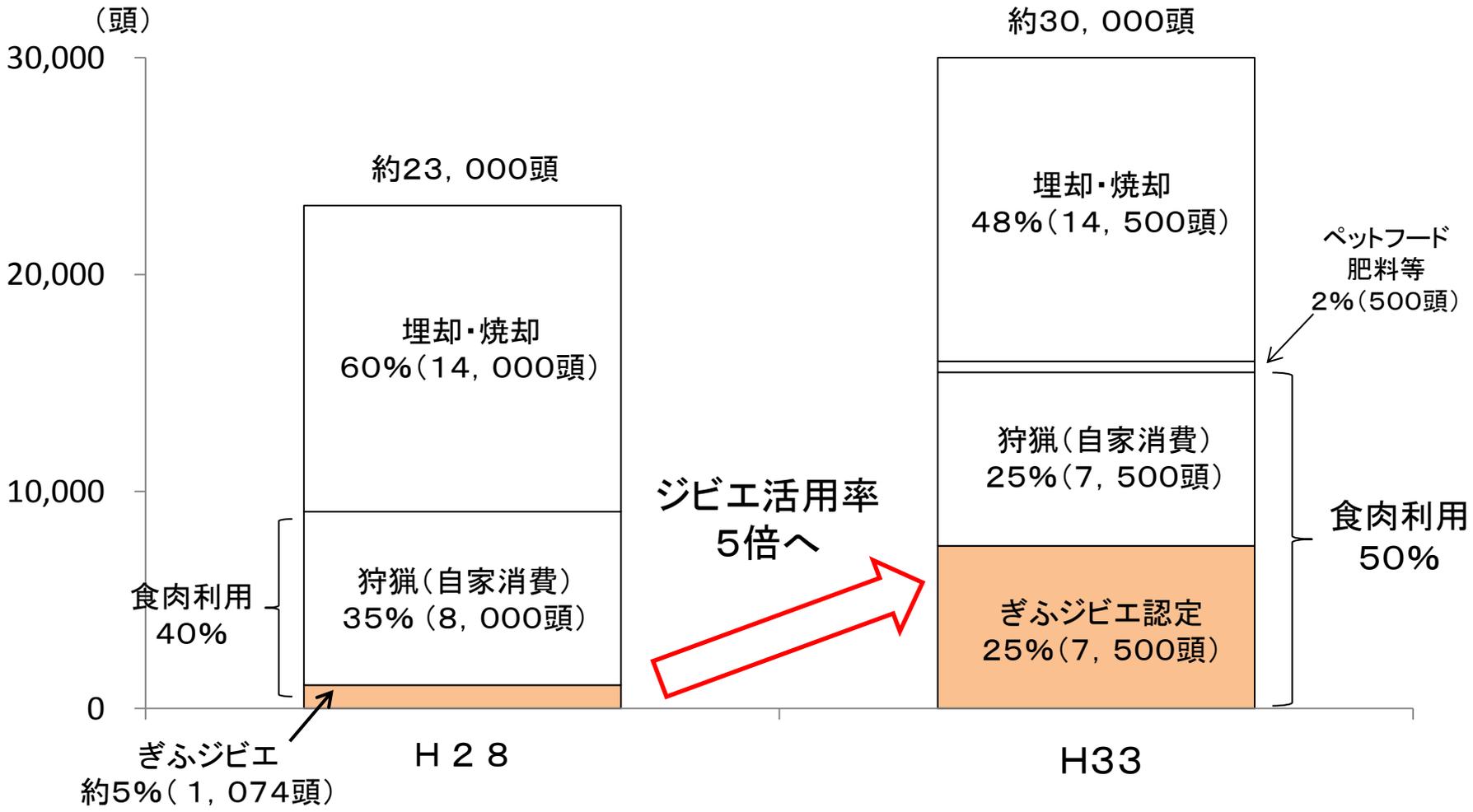


レーダーを使った飛行ルート調査

3 ズビエの活用拡大に向けた取組み

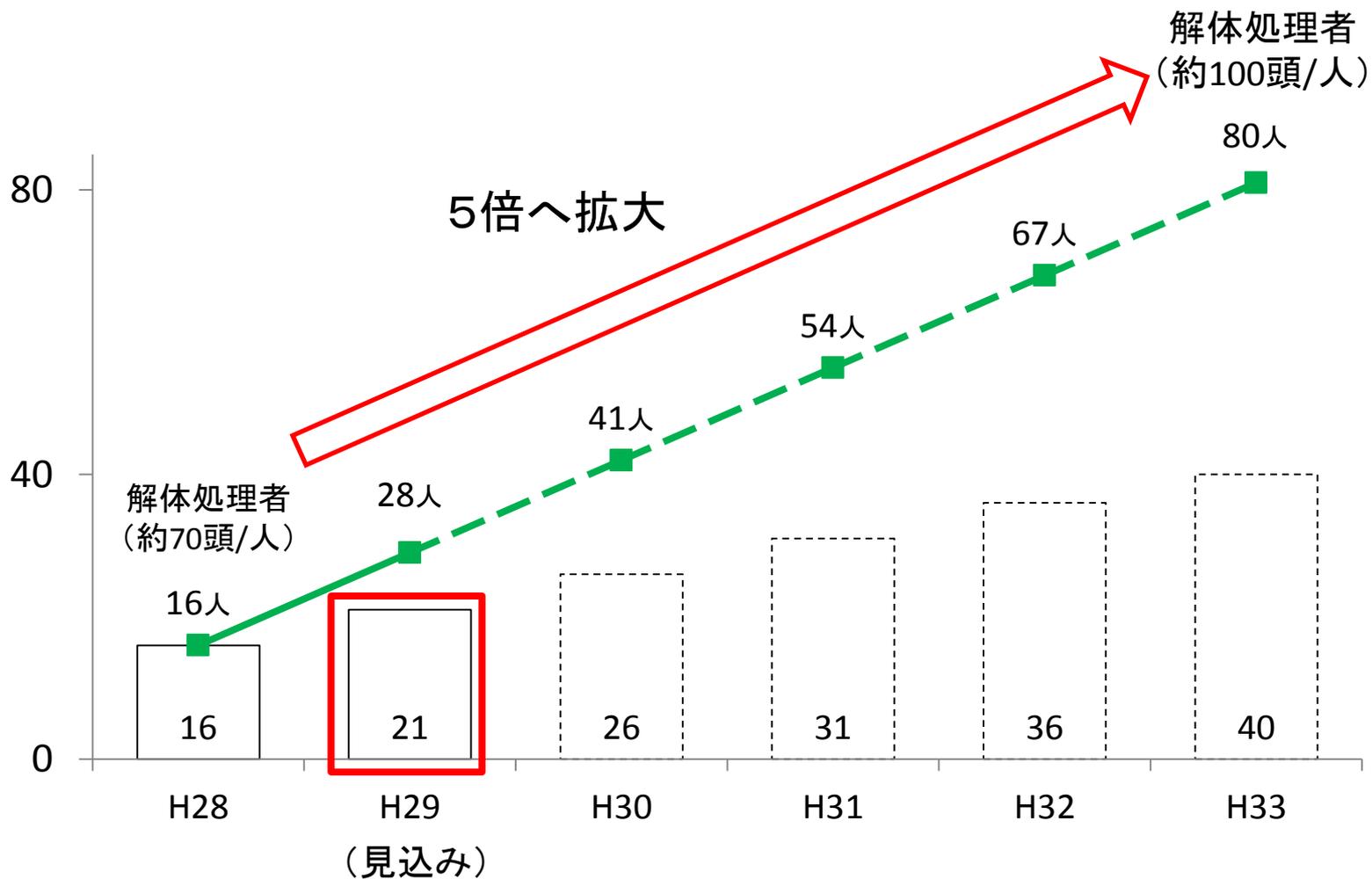
<目標> ズビエ活用率 5% (H28) → 25% (H33)

解体処理施設の整備、解体を担う人材の育成、1施設あたりの処理頭数の増により、活用率を5倍に拡大



解体処理施設の整備

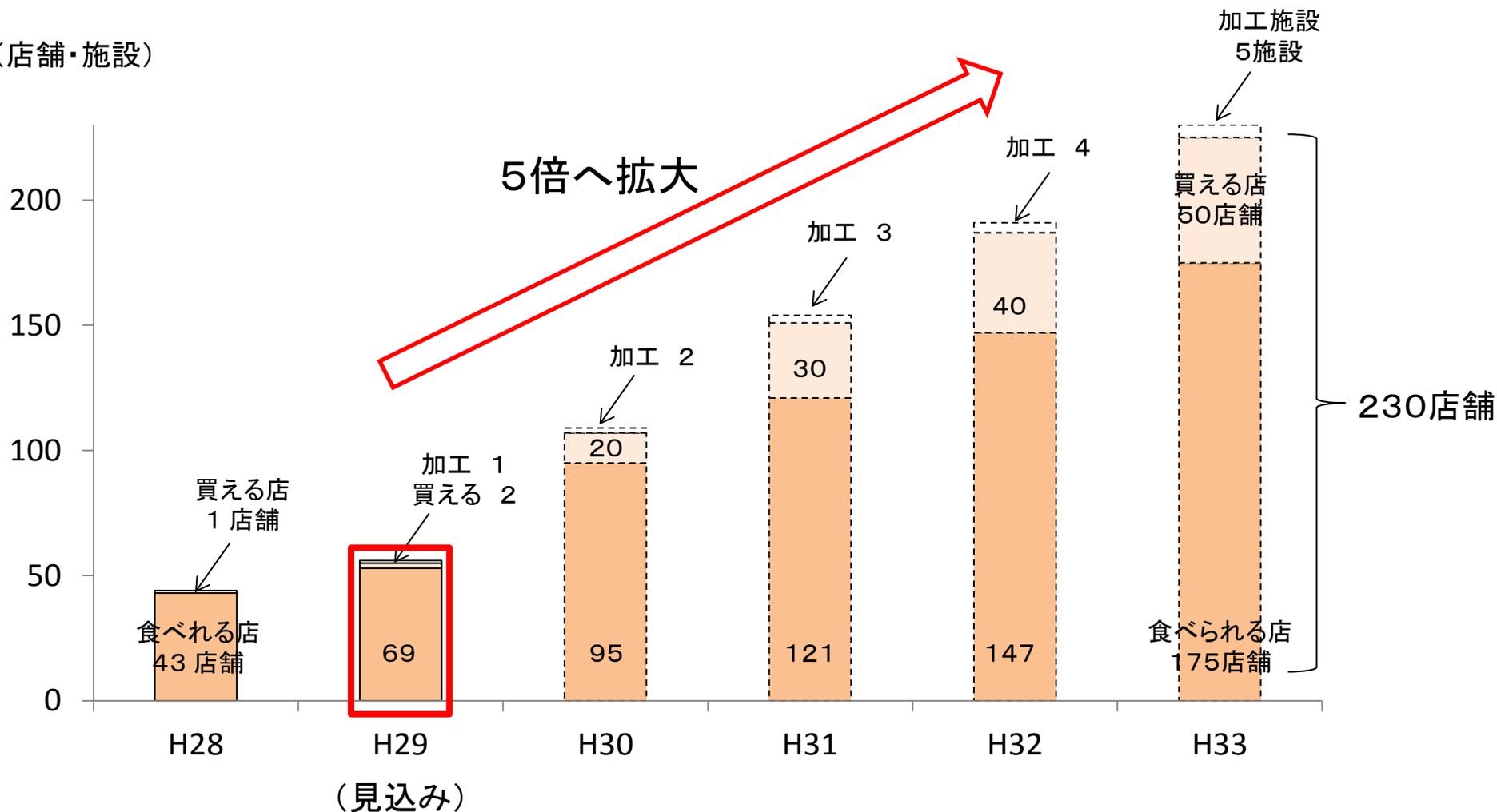
<目標> 解体処理施設 16施設 (H28) → 40施設 (H33) へ拡大
解体処理者 16人 (H28) → 80人 (H33) に増員



ジビエ取扱店舗の拡大

<目標> 登録店舗 44店舗 (H28) → 230店舗 (H33) へ拡大

(店舗・施設)



県内飲食店における取扱促進

調理講習会

主催等	県 ※協力: 県調理師会、ぎふジビエ振興協会
開催日・場所	平成29年10月24日(火) / 岐阜市内
参加者	県内レストラン等のシェフ 20人
内容	獣肉の特性を活かした調理方法の講習
成果	新たに2店舗で取扱開始



講習会風景

森のごちそう料理コンテスト開催

主催等	県 ※協力: 県調理師会、ぎふジビエ振興協会
開催日・場所	平成30年1月25日(木) / ホテルグランバール岐山
参加予定	県内レストラン等のシェフ 30人
テーマ	ジビエと県産農産物を使用した新メニュー
賞	最優秀賞1点、優秀賞2点 ＜審査員＞ 県調理師会など5名(予定)



コンテストイメージ

首都圏への販路開拓に向けた取り組み

首都圏シェフを招いての現地見学会

主催等	県 ※協力:ぎふジビエ振興協会
開催日・場所	11月6日(月)／揖斐川町内
参加者	都内のフレンチ、イタリアンシェフ 15店舗
内容	捕獲、解体の現地見学、ジビエのテスト調理
成果	新たに都内4店舗で取扱開始



捕獲現場見学



解体処理施設見学



テスト調理



取扱店を10店舗へ拡大しH30にフェア開催

消費者向けPR

森のごちそうぎふジビエフェス開催

主催等	県 ※協力:揖斐川町、ぎふジビエ振興協会、谷汲観光協会
開催日・場所	11月3日(金)、4日(土)／揖斐川町内
参加者	県内飲食店等11店舗
内容	ジビエ料理の販売と地域特産品の販売 農商工高校連携商品の販売
成果	来場者7,000人(2日間計) ※H28は3,800人



イベント風景

森のごちそうフェア2018の開催

主催等	県 ※協力:ぎふジビエ振興協会
開催期間	2月1日～28日 1カ月間
参加店舗	ぎふジビエ登録店 全69店舗(予定)
内容	各店オリジナルのジビエ料理を提供



提供料理イメージ